

経済部文化観光局観光課

1 観光振興対策

(1) 米子市観光協会事業活動に対する助成

米子市の観光と特産品の振興を図るため、米子市観光協会の事業活動への助成を行うとともに、その実施について協力した。

ア 観光客誘致宣伝事業

(ア) 山陰DC（DESTINATIONキャンペーン）事業

a 山陰DC限定プラン 大人達の社会見学「千代むすび酒造工場見学」オリジナルラベル作り

期間 平成30年7月1日～9月30日

内容 酒蔵見学時、地酒を購入した方を対象に山陰DC記念オリジナルラベルを作成する企画

参加者 6人

(イ) ぐるっと周遊！山陰・四国三角ルートスタンプラリーの実施

期間 平成30年6月22日～11月30日

内容 米子、松山、高知の観光協会が連携し、三角ルート連携事業を実施した。抽選賞品を制覇賞、3エリア豪華特産品詰合せ、また参加賞として応募者全員に3エリア記念グッズの進呈など拡充して設定し、より一層楽しんでいただけるよう各エリアの主要観光施設等（計45施設）の記念スタンプを使用した収集性の高い「スタンプラリー」として実施した。

応募数 125人

イ 情報発信事業

(ア) 報道機関等を利用した観光宣伝

a テレビ・ラジオ番組に出演し、皆生温泉や各種イベント、特産品等の紹介を行った。

b 雑誌・新聞の取材に対応した。

(イ) ホームページによる情報発信

観光協会のホームページ「米子観光ナビ」や公式Facebook、Instagramにおいて、米子市の観光PRを行った。

「米子観光ナビ」閲覧数：710,993（平成30年1月～平成30年12月）

公式Facebookページフォロワー数：3,758（平成31年3月現在）

公式Instagramフォロワー数：1,269（平成31年3月現在）

ウ 各種イベントの開催

観光客誘致と地域活性化を図るため、イベントの実施または開催協力を行った。

(ア) 米子桜まつり 期間 3月30日～4月8日

(イ) 皆生・大山SEA TO SUMMIT 期日 5月19日・20日

(ウ) 米子つつじまつり 期日 4月28日(米川会場)、29日(五千石会場)

(エ) 再生神話の郷マラニック 期日 6月10日

(オ) 皆生温泉海水浴場を開設 期間 7月7日～8月26日

(カ) 全日本トライアスロン皆生大会 期日 7月15日

(キ) 加茂川まつり 期日 8月23日

(ク) サイクルカーニバル in YODOE 期日 9月2日

(ク) 美水の郷 秋麗ウォーク

期日 9月22日

エ 観光商品造成事業

「大人達の社会見学」

期間：平成30年4月～平成31年3月

見学施設数：16施設

利用数：120件/2, 115人（前年度114件/2, 086人）

オ 指導育成・研修事業

優良従業員の表彰

期日 5月22日

表彰者 観光功労者1人 優良従業員20年勤続表彰9人 10年勤続表彰35人

カ 首都圏対策事業

(ア) 米子ふるさと観光大使任命式・観光情報説明会・意見交換会

期日：11月10日

場所：蕎麦と酒 いなたや丸の内パレスビル店(東京都千代田区丸の内)

内容：2人の新規観光大使を任命し、観光情報説明会では米子周辺地域の観光情報、米子羽田便等を紹介した

新規大使：杉原麻美、朝花美穂

(イ) 第2回アジア国際ユースサッカーIN鳥取(クラブセブンティ関連事業)

期日：11月16日～18日

場所：チュウブYAJINスタジアム

参加チーム：ガイナレ鳥取U18、韓国・江原FCユース、U18香港代表

(2) 観光案内業務

米子駅構内に米子市国際観光案内所を設置し、観光案内業務を行った。

◇年間利用状況

宿泊案内	観光案内	交通案内	地理案内	その他	合計
446件	7,855件	7,960件	1,024件	7,467件	24,752件

(3) コンベンションの誘致

本市へのコンベンション誘致を促進するため、(財)とっとりコンベンションビューローに対し、運営費、大会開催支援補助金等の交付を行い、その活動を積極的に支援するとともにその活用を図った。

(大会開催支援補助金交付実績)

件数	参加者数	延宿泊者数	交付額 (米子市負担額)
42件	20,498人	23,399人	25,284,950円 (12,642,475円)

(4) 観光関連団体との連携

日本観光振興協会、山陰観光連盟、鳥取県観光連盟、中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会等の観光関連団体との連携を密にし、本市観光振興を図った。

(5) 郷土芸能の保存、育成

米子がいな太鼓、米子がいな万灯の保存、育成を図った。

(6) 大山の美化、遭難防止活動等への協力

大山国立公園協会、大山の美化を推進する会、大山遭難防止協会等を通じて、大山の美化、自然保護等と遭難防止活動に協力した。

(7) 皆生温泉にぎわい創出事業

ア 観光宣伝事業の推進

皆生温泉旅館組合等と連携し、中京、関西、山陽、四国方面での観光宣伝事業を行うとともに、旅行雑誌、新聞などへのPR広告の掲載を行った。

また、皆生温泉PRチラシやイベント特集チラシなど宣伝ツールを作製するとともに、各旅館のポータルサイトの役割を担う旅館組合の公式ホームページを活用し、皆生温泉の情報発信に努めた。

イ インバウンド事業の推進

来訪者が増えている外国人観光客をさらに拡大するため、受入れ態勢の整備充実に努めた。

(ア) 外国語ツールの作製

皆生温泉を紹介する2か国語版タウンマップ、英語版の皆生温泉観光ルートマップを作製した。

ウ 街並み活性化事業の推進

皆生温泉の活性化策として、引き続き、既存の土産物店の「皆生横丁きないや」をはじめ、文化施設の「素鳳ふるさと館」、「手しごとギャラリーkaike」、足湯施設の「潮風の足湯」、「花風の足湯」等の散策スポットを活用し、街歩きが楽しめる温泉街の創出を推進した。また、皆生温泉の名物を作るため、オリジナル土産物の試作開発を行った。

エ にぎわいイベント等の実施

(ア) 皆生温泉 夏休みちびっこ広場の実施（7月20日～8月26日）

夏休みの子ども向けのイベントとして、期間中毎日、午後8時から9時まで皆生温泉海水浴場特設ステージで開催し、ミニ打ち上げ花火や当てくじなどでファミリー層の集客を図った。

(イ) 皆生温泉ミュージックフェスティバル「フォーク・デ・ナイトin皆生温泉」

5月11日～6月10日の期間、毎週金・土・日曜日 15日間開催

観光センター前庭等で地元アマチュアバンド等が出演し、演奏を行った。

(ウ) 皆生小唄によるおもてなし

野口雨情作詞で皆生温泉のご当地ソングとして歌い継がれている「皆生小唄」で来訪者を迎えるため、米子市観光センターの花風の足湯広場周辺に音響機器を設置した。

オ 周辺観光地タイアップ事業

とっとり花回廊《冬のイルミネーション》見学プランの実施、金田川ほたるバスの運行、金持神社を核とした日野郡周遊促進プランの実施、足立美術館直行バスの運行等の周辺観光地とのタイアップ事業を推進し、皆生温泉への誘客を促進した。

(8) 皆生温泉圏域観光拠点事業

米子市観光センター内にツアーデスク機能を備えた「皆生ツアーステーション」を設置し、県西部エリア全域のアクティビティの発掘・取扱い、体験メニューの造成、ホームページ等による情報発信を行ったほか、個人・旅行会社などに向けた広報活動の実施や、県観光連盟主催の情報説明会に参加し、県外へのPRを実施した。（皆生温泉旅館組合に対する補助事業）

(9) 皆生温泉街歩き魅力増進事業

期間 平成30年8月6日～19日 日没～午後10時

内容 伯耆国「大山開山1300年祭」事業として、皆生温泉の地域ブランド力の向上及び魅力アップに向け、皆生温泉・四条通りを紋様灯籠の幻想的で柔らかな明かりで灯すライトアップを実施した（主催：皆生温泉街歩き魅力増進事業実行委員会）。また、米子市観光センター多目的ホールにおいて、米子商工会議所の協力のもと共催イベントとして、室内型の「皆生温泉プラネタリウム」を実施した。

参加者 約2,500人

(10) ナイトデスティネーション in Yonago 事業

「米子城跡ライトアップ2018秋の陣（11/1～18）」と「皆生温泉・四条通り～紋様灯籠～（11/3～18）」を同時期に実施し、一体的にPRを行い、米子城跡の魅力を広く周知するとともに、四条通りに設置した紋様灯籠や松林のライトアップ等で皆生温泉の街歩きの魅力向上を図った。米子市観光センターにおいて山陰を代表する郷土芸能等のステージイベントや甘酒の振る舞いを実施した。

参加者 米子城跡ライトアップ2018秋の陣：約500人

皆生温泉・四条通り～紋様灯籠～：約1,500人

(11) 広域観光の推進

ア 伯耆国「大山開山1300年祭」の取り組み

名峰「大山」が平成30年に開山1300年を迎えるにあたり、大山山麓地域の自治体、観光、経済団体等官民が一体となり、一大ムーブメント伯耆国「大山開山1300年祭」を展開した。8月9日に中核催事として秋篠宮家の長女・眞子内親王殿下をお迎えし、米子市公会堂で「伯耆国『大山開山1300年祭』」記念式典が盛大に開催されたほか、大山圏域が有する様々な魅力を国内外にPRし、更なる誘客、地域活性化を図るため、様々なイベントや取組、情報発信などを展開した。伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会としては、「大山の恵みを感じるプロジェクト」「緑のプロジェクト」「水と食のプロジェクト」として事業を実施し、大山開山1300年祭を単なる一過性のイベントではなく、大山山麓地域の更なる一体感の醸成と地域の活性化を図っていくことをめざした。

イ 国立公園「大山」を望む7市町村及び鳥取県西部総合事務所で構成される「大山山麓観光推進協議会」において、広域的な観光振興策を推進するため、大山山麓エリアにおける優良な周遊滞在型観光地の形成を図ることを目的に、官民連携して各種事業を実施した。

構成自治体 米子市、境港市、南部町、伯耆町、日吉津村、大山町、江府町、鳥取県西部総合事務所、日野町（オブザーバー参加）、日南町（オブザーバー参加）

実施事業 〈一般会計事業〉

情報発信事業、圏域連携・商品づくり事業、地域啓発事業

〈DMO調査推進部会事業〉

パワードby大山DMO設立基盤構築事業

（大山パワーブランド化推進事業、広域観光連携体制整備事業、大山エコトラックスシステム構築事業、西部圏域版周遊バスと情報提供アプリによる周遊促進事業）

ウ 「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」の法人化（米子・境港・安来・松江・出雲）

平成29年7月に圏域のDMO組織として設立された「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」と連携し、境港寄港大型クルーズ客船受け入れ事業として、岸壁において観光案内及びおもてなしイベントを実施したほか、圏域のインバウンド対策や国内での観光プロモーションなどに取り組んだ。

なお、「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」は、社会的信頼度を高め、これまで以上に力強くスピード感を持って地域や関係団体と一体となった事業展開を行い、観光地域づくりを強力に推進し

ていくため、法人に移行することとなり、平成31年2月12日に「一般社団法人 中海・宍道湖・大山圏域観光局」設立総会が開催され、設立が承認された。（法人登記は平成31年4月1日）

参加団体：中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、中海・宍道湖観光協会会議

エ 中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会

中海・宍道湖・大山圏域の観光振興を推進するため、鳥取県と島根県の行政、経済団体、観光協会及びNPO等が連携、協働して、圏域の観光情報の発信等の事業を実施した。

なお、平成29年7月に「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」が設立されたのを契機として、平成30年度内に協議会を発展的に解散し、中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構に事業を引き継ぐことが平成30年7月25日の総会で承認された。解散総会を平成31年2月6日に開催した。

オ 日本遺産の取り組み

大山を中心とした周辺地域が「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のタイトルで認定された日本遺産の中で米子市の構成文化財は尾高道、旧加茂川の地蔵となっており、認定市町等で構成される「日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会」に参画している。本市では、旧加茂川沿いとパティオ広場に1基ずつ地蔵巡りの看板を設置したほか、平成30年9月22日～23日に富山県高岡市で開催された、日本遺産サミットin高岡に参加し、パネル展示のほか握り地蔵作成体験のワークショップを行うなど、県内外における本地域の日本遺産としての周知を図った。

(12) 中海・錦海かわまちづくり計画の策定

国土交通省のかわまちづくり支援制度を活用し、「まち空間」の地域資源の賑わいを水辺空間である中海・錦海と融合一体化させ、水辺に親しむ魅力ある地域資源の創出をめざすため、「中海・錦海かわまちづくり計画」を平成31年3月に策定した。

(13) 国際定期便の利用促進

米子鬼太郎空港と海外を結ぶ国際定期便の米子ソウル便と米子香港便の2路線について「国際定期便利用促進協議会」を通じ、両路線の利用促進活動を行った。

(14) ヨナゴがい～な！秋の収穫祭&文化祭

「農と食のフェスタ（10/20,21）」と「米子映画事変（10/20,21）」を核に、「大山ワンダーフォーラム（大山開山1300年祭のクライマックスイベント）（10/20,21）」、「市民大茶会（10/8）」、「米子城フェスタ（11/10,11）」、「よなご歩き愛です ハロウィンウォーク（10/21）」など秋のイベントを「ヨナゴワンダー！」として一体的に開催し、本市への誘客とにぎわい創出を図った。

(15) 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊制度を活用し、隊員2名により、県西部エリアの観光スポットやアクティビティの発掘、SNSを使った情報発信、米子城下町の観光開発、魅力向上を図った。また、平成31年3月から4月にかけて、「米子SAKURAプロジェクト」として、加茂川さくらライトアップや船上茶会、旧加茂川でのカヤック体験や観光センターでの「皆生花湯マルシェ」等を関係者とともに実施した。

(16) 山陰デスティネーションキャンペーン

「Nostalgic San'in 忘れがたき山陰」をキャッチフレーズに、JRと共同で大型観光キャンペーンを実施した。実施期間は当初、平成30年7月1日～平成30年9月30日の予定であったが、平成30年7月の西日本豪雨の影響を受け、「がんばろう！西日本キャンペーン」として平成30年8月から平成30年12月においても事業を展開した。

ア 山陰DC（デスティネーションキャンペーン）現地研修において、関西を中心とした旅行代理店窓口

担当者に対し、本市のプレゼンを行った。

イ 山陰DC用に作成された観光商品素材集に本市の情報を掲出。

ウ 平成30年7月1日、米子駅で開催された山陰DCのオープニングセレモニー（あめつちの出迎え・見送り、やくもの出迎え、特急大山の出発式など）において、ヨネギーズの着ぐるみ、伝統芸能淀江さんこ節などで盛り上げ、乗客に対し記念品や観光パンフレットの配布などを行った。

エ JR主催の大阪駅での観光PRイベントに参加した。

オ 観光列車あめつち内において、米子市観光協会、皆生温泉旅館組合らと観光PRや物販、ノベルティなどの配布などを行った。

(17) 米子市ロゴマーク・イメージキャラクターの活用

ア イベント等への貸出

ヨネギーズの着ぐるみを各種イベントに72回貸し出した。

イ 印刷物・キャラクターグッズとしての活用

米子市が発行する各種印刷物や職員の名刺・名札に活用されているほか、市内事業者、市民などに合計66回活用された。

ウ その他の活用

(ア) 昨年に引き続き、職員の福利厚生とヨネギーズの知名度アップを目的に作成していた通称「ヨネギーズポロシャツ」を福祉の店おおぞらから販売されるように調整を行った。

(イ) ヨネギーズの知名度アップなどを目的にポイントメモ（付箋）を作成した。

2 観光施設の整備及び管理

(1) 米子市観光センターの整備

ア 米子市観光センターリニューアルオープン

観光客や市民の利用を増やし、皆生温泉のにぎわいを創出することを目的に実施された米子市観光センターの改修工事（工期：平成29年9月～平成30年3月末）が完了し、リニューアルオープンイベントとして、4月21日に「ひな祭イベント」が開催され、工事期間中閉館していた「素鳳ふるさと館」も同日から展示を再開した。

イ 米子市観光センターブロック塀改修工事

大阪北部地震の被災状況を踏まえ緊急点検を行った結果、米子市観光センターのブロック塀について、耐震対策が必要であることが確認されたことから、海側のブロック塀58mを撤去しフェンスを設置した。

(2) 米子市観光センターの管理運営業務

ア 山陰観光の拠点として、昭和58年4月から利用開始。平成18年度から指定管理者制度を導入し、引き続き皆生温泉旅館組合に管理運営業務を委託している。皆生温泉の観光案内、旅館のあつ旋、各種集会室の使用許可、バス発着場など観光客及び地域住民の幅広い利用を図った。

イ 年間利用状況（テナント、広告看板、バス停利用を除く）

(ア) 観光案内 13,250件、48,610人

(イ) 施設利用

区分	多目的ホール	会議室	料理研修室	和室	第1展示ホール	第2展示ホール	第3展示ホール	合計
件数	273件	508件	22件	142件	365件	182件	357件	1,849件
人員	12,790人	5,410人	260人	1,820人	0人	4,240人	2,850人	27,370人

ウ 米子市観光センター指定管理委託先 皆生温泉旅館組合

指定管理委託料 2,490,000円

(3) 米子コンベンションセンター管理運営業務

ア 米子コンベンションセンター（米子国際会議場を含む）を鳥取県と米子市が共同で管理運営を行い、利用者への応接や利便性の向上に努めた。

イ 米子国際会議場指定管理委託先 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー

指定管理委託料 57,254,653円

[米子国際会議場利用状況]

催し 物件数	集 会			展 示 会	音 楽 ・ 芸 能	そ の 他	計
	大 会 式 典	講 演 会 説 明 会	会 議	展 示 会 見 本 市	1 件	2 1 件	1 1 0 件
	1 4 件	5 6 件	1 2 件	6 件			

利用日数 199日 稼働率 66.1%

ウ 米子国際会議場 I T V 設備整備事業

米子国際会議場の I T V 設備（監視カメラ等）を更新し、コンベンション機能の強化充実を図った。

事業費 6,031,800円

(4) 観光案内看板設置事業

旧加茂川沿い（1箇所）と湊山公園内（2箇所）の観光案内看板の盤面を更新するとともに、多言語表記（英語・中国語・韓国語）を行った。

事業費 1,333,800円